

# 「めざせ★ストリートミュージシャン♪」

教科・場面

## 自立活動

授業・実践のねらい

- ・股関節手術後の痛み過敏な生徒の立位姿勢の確保
- ・肘での支持 及び ヘッドコントロール
- ・手の巧緻性向上

対象の児童・生徒

中学部 2年

C 類型

重度重複スコア 要求表出・人間関係  
共にⅢ～Ⅳ程度

脳性まひ（脳室周囲白室軟化症）

てんかん発作、

咽頭狭窄で気管切開（カニューレ装着）

左股関節脱臼（臼蓋形成不全）

2018年12月に左股関節観血整復術

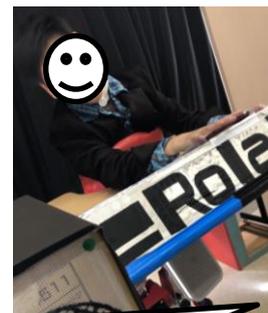
上肢は右優位で、不随意的動きもみられるが、好きな物に手を伸ばして掴むことができる。表情は豊かで発声や机をたたいたりして気持ちを表現することができる。

教材・教具

- ・ iPad
- ・ アプリ「iKaossilator」(KORG)

指1本で感覚的にトラック・メイクできるシンセサイザーで音楽知識がなくともタッチパッドをなぞったり、叩いたり擦ったりするだけで演奏することができます。

- ・ 着脱式斜面台



工夫したところ

- ・ 生徒の興味の活用
- ・ 因果関係のレスポンス
- ・ 教材の視覚的配慮
- ・ PTによる姿勢確認（巡回相談）
- ・ プロンボードに着脱可能な斜面台を制作（iPad miniの画面を制限したカバーも制作）

授業展開・教材の使い方・実践の内容など

- ・ 肩・胸・腰周り、左下肢の膝裏、股関節などのストレッチ後、プロンボードで立位を行った。
- ・ 初めは手をサポートし、一緒にどんな動きでどんな音（音量・音程）が出るか確認をした。
- ・ 時には肘をサポートし、指先の分離した動きを促した。
- ・ 教員とセッションし、演奏を通してコミュニケーションを楽しんだ。
- ・ 楽しむことで、50分程度、立位姿勢の時間を確保した。
- ・ レコーディングとジャケット撮影をし、デモCD制作に取り組んだ。

授業・実践を通じた児童生徒の変容

- ・ 音を鳴らしたいという意欲から股関節の違和感を忘れ、持続して立位姿勢を取り、骨の成長を促すことができた。また、意欲的に上肢を使おうとすることで、肘で支持する経験を重ねることができた。
- ・ 手の使い方、特に動きの少なかった左手指の分離した動きが見られるようになった。
- ・ 演奏に合わせて声を出し、歌う姿が見られた。